

【プロフィール】

○三好“3吉” 功郎 Isao Miyoshi (Guitar)

1960年、大分県別府市生まれ。高校在学中にギターを始め、大学入学後、ジャズに興味を持つ。83年、自己のバンド「3吉バンド」でデビュー。その後、本田竹曠(p)、ポールジャクソン(b)、梅津和時(as)、桜井哲夫(b)等々、様々なグループのギタリストとして活躍する。

92年から、より自由なギター・トリオのスタイルを目指し、村上“ポンタ”秀一(drs)、坂井紅介(b)と「3吉・ポンタ UNIT」を結成しライブ活動を展開、95年には同トリオにて初リーダーアルバム「サンキチズム」を発表、ジャズギター・トリオの概念を破る傑作と、各方面より絶賛される。96年、2ndアルバム「パイナップル・アイランド」を盟友、塩谷哲(p)、ヤヒロトモヒロ(perc)等と録音。また、98年発表の3枚目のリーダーアルバム「ユア・スマイル」では長年の夢であったNo.1ハーモニカ奏者、トゥーツ・シールマンスとの共演を果たす。

ギタートリオでの活動と並行して2000年、仙波清彦(perc)、小野塚晃(kb)、パカボン鈴木(b)、鶴谷智生(drs)からなるユニット「SURPRISE」を結成、03年アルバム「SURPRISE」を発表、06年には同ユニットのピアニスト小野塚とのアコースティック・デュオ・アルバム「First Touch」を発表する。

国内での活発な活動のかたわら、2000年、米ワシントン D.C.ケネディーセンターで行われた「JAZZ GUITAR SUMMIT CONCERT」に日本から唯一人参加、また、01年には自身のバンドを率いてのドイツ、フランス公演、さらに、タイ、ミョンマー、ラオス、フィリピン、インドネシア、インド、ベトナム、韓国等のアジア諸国をツアーするなど海外公演も数多く、各地で好評を博している。

99年より自身の活動に加え、ポップフィールドでの活動も拡げ始め、矢沢永吉(vo)、森山良子(vo)のコンサート・ツアーでは音楽的な中核を担い、大きな信頼を得ている。また、国府弘子(p)、本田雅人(sax)をはじめとするアーティストのライブやコンサートに参加、その活動は多岐にわたる。

卓越したテクニックと豊かな音楽性を備えた日本ジャズ・シーンの中心的なミュージシャンの一人として大きな期待を集めている。

○コー・Mr. サックスマン Koh Mr. Saxman (Saxophone) *Thailand 1973年生まれ。

チュラロンコン大学(1991-1994)にて音楽教育を専攻。

Terent Kynaston氏、Roger Greenberg氏、Michael Paolo氏などの著名なサキソフォン奏者のワークショップに参加。以来、10ヶ国以上で演奏活動を展開、4枚のアルバムを発表する。

さらに、映画、TV番組、CMソング等の音楽を手がける。同時に数多くのアーティストのアルバムに参加、その数は百を超える。

1989年、師であるMr. Jass(pf)の下、わずか16歳にしてプロのミュージシャンとして活動を開始。その後、Boy Thai Band(タイの現代音楽)、The Jazz Infinity(タイのフュージョン・ジャズ)、T-Bone(タイのレゲエ・スカバンド)のメンバーとして活躍。そして、フュージョン、ファンク、ポップジャズのバンド、The Funk Machine Bandを結成し、国内の数多くのクラブで演奏活動を始める。一方、Bird(Thongchai Macintai)、Jennifer Kim、Losoなどタイの数多くのトップ・アーティストたちと共演、また、タイ国内はもとより、シンガポール、マレーシア、中国、日本をはじめ、イタリア、イギリス、アメリカ他での様々なコンサートやフェスティバルに出演するなど、その活動は多岐にわたる。

2002年、GMM Grammyから“Koh Mr. Saxman”という名前でデビューし、タイ・ポップス、ジャズ、フュージョンのジャンルで4枚のソロ・アルバムを発表。その楽曲は多くのリスナーに支持され、ラジオ局のミュージック・チャートの上位を賑わし続けた。翌2003年には1stアルバム「Mr. Saxman」収録の『Rush Hour』にて、Best Instrumental Song of the Yearを受賞。

Mahidol大学、Kasatesart大学、Rangsit大学、KPN music academyの音楽科で後進の育成にあたる一方、サキソフォン・コミュニティー“Sax Society”を設立し、ポール・モーリア・サキソフォンのオフィシャル・アドバイザーとしても活躍している。

○テイ・チャー・シアン Tay Cher Siang (Piano) Malaysia

10代でジャズに興味を持ち、ジャズピアニストとしての音楽活動始める。ウエストバージニア大学のピアノ科の学士号を持ち、ジャズ教育学の修士をミルトンバーガー博士とシー教授の下で学ぶ。

2004年に行われたWVU ヤングアーティストコンテストでの優勝を含み、彼の受賞歴は、HERF Top-Off 賞、ヴァレリー・キャナディ賞受賞がある。また、彼が大学のジャズ・ビッグバンドやさまざまな小さいアンサンブルを指導する機会を得たWVUのジャズ科の大学院生助手でもあった。

年間を通して、テイは定期的にソロ奏者として、またアンサンブルと一緒に、WVU ビッグバンド、モンリバー・ビッグバンド、ジェニー・メナ・トリオ、ワシントン・ストリート・ジャズバンド、そしてWVU ウインド・シンフォニー・オーケストラなどで演奏した。テイはヤングアーティストコンテスト勝者を称えられてWVU シンフォニーオーケストラと共にジョージ・ガーシュインのピアノ協奏曲へ長調を演奏。彼はまたクラシックとジャズのピアノ奏者としてさまざまなグループと公演を行う一方、ビッグバンドや小さいグループへの作曲、編曲も手がけている。

現在、テイはUCSIとクアラランプールのTalent Makersで教鞭をとっている。マレーシアへ帰国以来、クアラランプールのジャズシーンで活躍中。グレッグ・リオンズ・グループ、ポプリシティ、グルヴァヴェヴー、アイ2アイ・ジャズ・ミックス、ライザル・ソリアーノ・バンド、アーバン・トライブス、ウエーヴ・アルケミスト、ルイ・ソリアーノ・カルテットで演奏する他、カジャー・イブラヒム、ジュンジ・デルフィーノイ、アイダ・マリアーナ、ジーナ・パニザレス、ミッシェル・ヌニスなどのヴォーカリストのバックミュージシャンとしても活躍している。また、2007年6月Riauでのマラッカ・ストレーツ・ジャズ・フェスティバル、同7月ペナンでのペナン・ジャズ・フェスティバル、そして2008年3月シンガポールでのモザイク・ミュージック・フェスティバルで演奏した。

○一本 茂樹 Shigeki Ippon (Bass)

1971年、山梨県生まれ。東京芸術大学在学中に永島義男氏に師事、研鑽を踏む。

2000年、同学卒業と同時にプロとして活動を始める。これまで、仙波清彦(perc)、三好功郎(gt)、ゴンチチ、溝口肇(vc)、葉加瀬太郎(vn)、平原綾香(vo)など多彩なアーティストのライブやコンサートに参加、またCMやTV、J-POPのアーティストなど数多のレコーディングに参加する一方、「ライオンキング」(劇団四季)、「オケピ」(三谷幸喜脚本)他の舞台にミュージシャンとして出演するなど多岐にわたり活躍中。コントラバスとエレクトリックベースを自在に操り、クラシックからジャズ、ポップスまで幅広い音楽性と卓越した演奏力で躍進めざましい次代を担うアーティストの一人である。

○則竹 裕之 Hiroyuki Noritake (Drums)

1964年生まれ、大阪府出身。幼少の頃よりドラムを始め、あらゆるドラミング・スタイルの習得に少年時代を費やす。神戸大学在学中の85年「THE SQUARE」に加入し、プロデビュー。

同グループ在籍の間、全米ツアーや海外レコーディングなど数々の経験を重ねながら、様々なアーティストのライブやレコーディングにも参加。日本人グループとして初の米国「PLAYBOY JAZZ FESTIVAL」への出演、94年には日本人として初の政府公認による韓国公演を果たす。また10回に及ぶ日本ゴールドディスク大賞(JAZZ部門)受賞など、その活動は国内外に広く評価された。

99年ソロアルバム「DREAMS CAN GO」を発表し、メロディ・メーカーとしての才能も遺憾なく発揮。2000年「THE SQUARE」を退団。その後は稲垣潤一、大橋純子、Misia、Kiroro、AKIKO、paris matchなど、J-Popアーティストのレコーディングやライブをサポートし、ジャズ・フュージョンの枠に留まらない幅広い活動を展開している。

02年にはフランス・パリにて佐渡裕指揮コンセル・ラムルー管弦楽団ガラコンサートにゲストとして出演し、その演奏は高く評価された。その後も関西フィルハーモニー管弦楽団、京都市交響楽団、シエナウインドオーケストラと共演する等、ジャンルを問わず柔軟に変化する色彩豊かなドラミングは各方面から絶大な信頼を寄せられている。

04年神保彰とのツイン・ドラムユニット「Synchronized DNA」を結成。世界でも例をみないドラムだけのユニットとして今後の展開に注目が集まる。